

者にとっては褒賞品にも勝る名誉になるだけでなく、衆目の評価は選者の力量も問うことにもなり、本コンテストの継続的發展に繋がるものと思われま

願わくは、太宰治を輩出した弘前大学の本コンテストが全国の大学生等に周知され、時代を先導する若き文芸者の登竜門になることを望みたいと思います。

(おおとも よしみつ)

本との出会いを楽しむ 第6回

美とファンタジーの世界へ

保健学研究科教授 西澤 一治



原稿を依頼されて改めて自分の書棚を眺めると、医学の専門書よりも美術と音楽関連の本が多いのに気づきました。購入してまだ読み終えていない本も数多くあります。この中でご紹介するとすれば、エウヘーニオ・ドールス著「プラド美術館の三時間 Tres Horas En El Museo Del Prado」(神吉敬三訳、美術出版社 1973) でしょう。この初版本は上質な布地装丁で、外装は原著の第 10



版(1971)を忠実に模したものと思われま

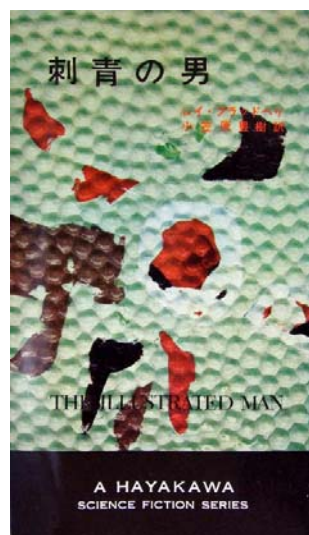
す。これは決してプラドのガイドブック的な本ではなく、いわば美術評論に属

します。エル・グレコ、ゴヤ、ベラスケスに多くの頁を割いていますが、この本を味わいますと、いつかはプラドを訪れたいと願わずには居られない気持ちになります。

残念ながら本書は絶版で、97年に筑摩書房から新装版で発行されているのですが、これも絶版になっているようです。子供の頃、生家の2軒隣に「暖鳥」の小さな看板が掲げられた貸本屋がありました。高校の教師をされていたご主人は有名なアララギ派の歌人でした。店を切り盛りなさっていた奥様が、今思えば相当な知識人で、本好きの私に「これを読んでご覧なさい」、「今度はこれを」と、色々なジャン

ルの本を薦めてくれました。ここで出会ってファンになったのがペーパーバックの早川ミステリとSFであります。クリスティ、ドイル、クイーンなどの推理小説、アシモフ、ハインラインなどのSFは有名な作品は学生時代に殆ど読みました。チャンドラーなどのハードボイルドにも夢中になりました。特にSFの魅力に惹かれて知った作家が、「華氏451度 Fahrenheit 451」で知られるレイ・ブラッドベリ Ray Bradbury であります。彼はその後SFから離れてファンタジーに軸を移しますが、「火星年代記 The Martian Chronicles」のような抒情詩的な名作は、年代を超えて輝き続けるSFの金字塔と思います。ブラッドベリは多くの短編集を上梓して、私は2作目の「刺青の男 The Illustrated Man」が大好きです。特にこの中の「万華鏡 Kaleidoscope」や「今夜限り世界が The Last Night of the World」は、読んだ後に何か

が心に深くしみ入って忘れられないものがあります。冬の夜にグラスを片手にお読みになっては如何でしょうか。



(にしざわ かずはる)